

はなむけの言葉



総長・学長

ながい かずゆき
永井 和之

卒業生諸君の卒業を心から祝福します。

諸君の卒業する中央大学は、今、新たな新世紀を力強く歩み出しています。そして、母校中央大学の新たな発展は卒業する君たちの今後を強く支援することとなると確信しています。その改革は、この豊かな地球を次の世代に引き継いでいくという歩みでもあります。次の世代に、この地球をより美しく、平和で文化的なものとしていかに引き継ぐかということは、全ての人類共通の課題でもあります。

卒業生諸君も、全中央大学人の一

員として、このことを明確に意識して、社会人として活動をして欲しいと考えています。

この地球の美しさは、自然環境的な美しさはもちろん、文化的な美しさをも意味しています。文化的な美しさは、平和であり、人間の知的な探求心に応えるべき哲学から科学までの人類の叡智であり、また、人間精神を豊かにする音楽・美術などの芸術であろうと思います。

卒業生諸君は、具体的には、古代から現在までの人類の叡智を結集させる学問の府である中央大学において、人類の叡智を学んできたことと確信しています。そして、その叡智を、

これからは社会に還元していくことを求められています。そして、先程述べたような美しい地球を将来の人類に継承していく責務を負っているという自覚を持つていくことが求められています。そのような姿勢を維持し、社会という場において、おかしいことはおかしいと感じる感性を堅持し、誠実に人生を送って欲しいと願っています。

中央大学は、派手なところはありませんが、むしろ地味な大学という印象を持たれています。そのような社会からの印象を否定しません。しかし、その派手ではないという印象には、本学の卒業生が誠実であるということが含まれているように思われます。これはまさに、本学の伝統である質実剛健ということではないかと考えます。ということでは、私はこの伝統を誇りに思います。卒業生諸君にも、この本学の伝統をふまえ、人生のこの王道を倦むことなく進んでいくことを希望します。

そして、君たちの母校となる中央大学は、いつまでも君たちとともにいます。君たちが人生において挫折そうになどき、この人生の王道を歩むことに疲れたとき、本学に入学し、学んだ日々を思い出してください。そして、そのような日に中央大学は君たちに勇気を与えられる大学として、厳然としてそびえ立つ大学であり続けます。

また、諸君がその社会経験から得た叡智を、母校中央大学の新しい伝統を築いていくうえにおいて供してくれることを願っています。それでこそ母校中央大学が、全中央大学人のものとなり、より一層存在感のある大学となることと考えるのです。私自身も、母校である大学に教員として残った者の責任として、母校の伝統を守り、発展させ、そして、新しい世紀に敢然として輝く新しい姿の母校を目指して、できる限りの努力をすることを卒業生諸君に約束します。また、会いましょう。